

丸山湿原群保全の会会報

(第 154 号)

発行日：2020 年 (R2) 5 月 18 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail : maruyamashitugengun@gmail.com

「緊急事態宣言」が出てから「休みの日はおうちにいようよ！」を合言葉にそれぞれの生活が続いています。経営的に大変なことになっている会社やお店。必死で頑張ってくれているコロナ関連医療従事者。キー (Key) となる一つの出来事がすべてに繋がっているのが本当によくわかります。ところが視点を変えてみると、意外にもコロナ関連以外の医療は患者が少なかったり。(表現は良くないですが…行くと感染リスクがあるため) スーパーは大忙し。マスク業者もしかり。当たり前なのですが、つくづく不思議に思います。共通するのは誰でも感染リスクはあるということです。早期のワクチン開発が望まれます。

「新しい日常」が現実味を帯びてきました。これまでの生活スタイルには戻れない？少なくともしばらくは。どんな暮らしが「新しい日常」となるのでしょうか。「日常」です。楽しめる暮らしにしたいものです。

(今住 5 月 17 日作成)

さんぽ・さんぽ・柴刈り 散歩急増中！ 個人？偶然も…4 人いたりして (柴刈り)

前回のお散歩の連絡を受け「私も行かなくては…」と思い、何度かふらふらと 1 人で行っています。連休最終日にも。

駐車場には常時 2~3 台 (ほぼ毎日) の車は止まっています。竹筒ポストは「その他」のところがいっぱいに近い。(4 月 23 日) 中間集計が必要なようです。ただし、**いたずらやごみの投げ捨てが目立ちます**。ポストの数字もいたずらの可能性あり。性善説にのっとり報告には素直に上げています。(性善説は孟子の思想、本来人は善ですが…)



丸山登山も増えている？



シジミ 美味しかったのかな？

とにか行くところがないので丸山湿原へという方が増えているようです。老いも若きも、自然に興味があろうとなかろうと、丸山登山も増えている？とにか散歩かな？いいのですが最低のマナーは守っていただきたいものです。

まず最初の異変は…「シジミ」。「体にいいわよー！」「なんちゃら習慣！」という CM が聞こえてきそうですが。今回は会員から「丸山湿原にシジミいる？」という声。

川にいたるのだからいても？そんな馬鹿なとチェック。きれいに「身」が抜かれた殻がまとまって木道の下に。食べた人は「元気あるある」、見つけた私たちは「元気なしなし」、情けない。すべて回収いたしました。

二つ目は竹筒ポスト。一杯になりかけていたと思ったら「おー！竹筒ポストがあふれている！」。ふと見ると、ポストに入れる石の容



レジャーシートまだ使えるのに



一番下「散歩・登山」が満杯



割り箸と石入れ

器（素焼きの植木鉢）がない。振り向くと…ひっくり返され、底の穴には「割り箸」が突っ込まれています。周りを見ると弁当のビニール。近くにはレジャーシートまで。なんで？どこにでもいるものです。気にしない気にしない。と思いながら「元気なしなし」。ハイキングや登山、自然愛好家にはこんなことをする人はいないよね。暇つぶしに来てつまらなかったのか。仕方がありません。これも「生物多様性」ですかね？？？

と情けない話はもういらない！ワクワク話を。 コロナでも季節は進みます。暖冬の影響が心配されましたが「沈黙の春」にはならず、賑やかな春です。4月の低めの気温の影響かほぼ例年通りのサイクルのような気がします。（個人的見解）4月23日（木）には**トリガタハンショウツル（鳥形半鐘蔓）**が開花。これはいつもの株。（知っている人は知っている）昨年同様、数は少ないですが大きな花を咲かせていました。毎年開花して種もたくさんつけているのですが、意外に増えないのはなぜでしょうか？条件等あるのでしょうね。不思議です。見つけられないだけかも？現実にこの花の横を歩いても気づかない人がほとんど。山野草はすごい戦略で生き残ってきているのでしょうね。ここぞというときにだけ目立つ。



トリガタハンショウツル

ところが妙に目立つやつも。出ました！丸山名物**ツチアケビ（土木通）**。何度も言いますが私は嫌いです。しかし癖になるやつ。今年も同じ場所。よほどの栄養源があるのか。ナラタケに寄生しているらしいのですが、ナラタケも菌類（キノコ）。寄生です。寄生に寄生。菌従属栄養植物や菌類はややこしい。調べてみるとナラタケ（種類が結構ある）はキノコやカビに弱いそう（この話も考えるととてもややこしい。だからここは考えない。）、いわゆる地面が新しい場所（バッドランド？）を好むそうです。ナラタケが同じ場所に存在し続けるためには、刈り取りなどが頻繁に行われていることが必要？とも解釈できる？毎年同所で見られるツチアケビはササ類の刈り取りの成果ともいえるのか。結局ナラタケを守ることがツチアケビに貢献しているのですね。私は嫌いですけど…この時点では巨大ホワイトアスパラ状態でした。一般の散歩（ハイキング？）の方もよくご存知で、「今年も生えてる？」と覗き込んでおられました。その方も「私は気持ち悪いけど」「でも気になるね」と。同意見に満足いたしました。



×ホワイトアスパラ ○ツチアケビ

同じ菌従属栄養植物の**ギンリョウソウ（銀竜草・幽霊茸）**も同じエリアに生えました。いつも沢沿いに見られるのですが、今年は見えず。ツチアケビと同じ場所に突然。花が咲くまで出てこない、花が咲くと消えてしまう。まさしく幽霊です。（語源は姿からのようですが）寄生する菌（ベニタケ類）がツチアケビとは違らしくこれも神出鬼没。ハナバチが受粉の手伝いをし、モリチャバネゴキブリに餌を与え、種を運んでもらうとか。世の中は不思議だー！やはり繋がっている。繋がりが切れたとき何かが消える。何かが消えるとまた何かが消える…デフレスパイラルのようです。自然からすべては学べるのかも。いやいや、人の営みも自然の一部であることを再認識すべきです。「新しい日常」のヒントがこんなところにあるのでは。「新しい日常」は繋がりを断って繋がろうというものだそうですが、実際どないやねんと思います。田舎生活は繋がりは濃い



ギンリョウソウ（ユウレイタケ）

ですが接触は少ない。やはり「地方分散型社会」しかないな、と思う今日この頃です。

また話題が飛びました。シュレーゲルアオガエル(シュレーゲル青蛙)が多く鳴きだして、カエル



危険！ヤマカガシ

が大好きな蛇も出てきています。ヤマカガシ(山棟蛇)を発見。毒蛇です。絶対に触ってはいけません。しかし比較のおとなしい蛇で咬まれることはまずない。そのことから毒蛇と分かったのは 1972 年だそうです。2017 年に少年が噛まれて話題になりました。会報にも書いた？個体変異が多く黒いのやアオダイショウにそっくりのものもいます。真っ赤な模様を持つ美しい個体も。側部に赤い模様と黒い斑紋があればまずヤマカガシ。瞳孔は丸ね。縦はマムシだけ！マムシも今年は早いようです。これは本当に危険。注意注意。でも一番凶暴なのはシマヘビですよー。すぐ怒らはります。毒はなし。真っ黒なシマヘビ(カラスヘビ)も西谷には多いから面白い。

4月26日(日)は柴刈りの人が4人。この時期は竹筒ポスト付近でよくやられています。各自ソーシャルディスタンスを取りマスク着用？この場所は毎年少しずつ常緑樹の伐採が進められています。道際にはササが繁茂していますが、奥の大きくなったイヌツゲ(犬柘植)を中心に。満杯の竹筒ポストの中間集計もされていました。やはりただ柴刈りに来ているだけではないようです。そこにもトリガタハンショウツルがありました。もう終わりかけになっていましたが、たくさんの花をつけていました。



イヌツゲ 伐採とさばき

短時間の柴刈りのようですが、イヌツゲやソヨゴ(冬青・戦)を片付けると見違えるように明るい場所になっていきます。少しずつですが頑張りましょう。常緑樹をさばいていると鳥の巣が。種類はわかりませんがごみのビニール紐も活用したきれいな巣作りでした。



小鳥の巣(メジロ?ウグイス?)

卵を産む前だったのか放棄されたのか不明ですが、子育ての痕跡はなし！

少し開けた下にはヒメカンアオイ(姫寒葵)がたくさん生えています。花を残したものも。ギフチョウの食草です。今年は当たり年。卵を産み付けているに違いありません。見つけることはできませんでした。残念。柴刈りだからね。



ヒメカンアオイ 花は終わりかけ

ウグイスカグラ(鶯神楽)ツクバキンモンソウ(筑波金紋草)は終わりかけ。ウワミズザクラはどうかと思いましたがもうすでに終わっているようでした。去年はザイフリボクやマルバアオダモも含め開花数が多かったのですが、今年は本当に少ない年でした。隔年？あまりこの話は信用しませんが。あるんでしょうね。



ツクバキンモンソウ終わりかけ



ウグイスカグラ

トンボも出てきました。やはり最初はシオヤトンボ(塩屋蜻蛉)。駐車場でも帽子の上に止まってしばしの休憩。羽化間もない個体と思われます。



帽子に止まったシオヤトンボ幼体

お散歩 ★5月9日(土) お散歩7人がレポート

目的	市内	市外
丸山	87	43
ハイキング	46	55
散歩・登山	131	38

来場者数 計 400 人
(竹筒ポスト人数)

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度 (EC)	PH
入口	10:06	20.2℃		
第3湿原	10:39	【18.2℃】	34.7 μS/cm	6.6
視点場	11:00	22.7℃	31.9 μS/cm	6.2
第1湿原	11:10	【21.2℃】	32.6 μS/cm	6.8
第2湿原	11:40	【17.9℃】	36.3 μS/cm	6.9

またまた散歩です。前回の機材バッテリー切れ汚名返上です。その前に中間集計したポストあふれかえってました。カウントできる数で400人。ひと月と考えると多いとは言えない数字ですが、竹筒ポストだからね～。今のPCR検査と同様この数字の10倍20倍の訪問者がいると考えると???やはりと思わざるを得ません。しかし数字は数字。散歩が多いのは事実だと思われます。

湿原は水不足気味。雨の日が結構あるように感じますが、雨量は少ないようです。付近のため池も水量が……。田作りに使って後たまりません。雨降りの感覚と雨量は全く別物と毎年感じます。昨日(16日)雨が降りましたが水量はどうなるのでしょうか？



マムシ柄 流行るかな？

第3湿原の測定場所では早速マムシ(蝮)が見つかりました。マムシは出てくるのが比較的遅い蛇？(感覚です)今年早くまた多いのかもしれませんが。注意をお願いします。

水質のデータは異常なし。ほぼ毎年と同じ数値です。1回抜けてますので一応。

湿原内はヤチカワズスゲ(谷地蛙菅) ツボスミレ(坪菫)が開花。地味な花ばかりですがよく見ると可愛い草花です。ツボスミレは別名ニョイスミレ(如意菫)ともいいます。花の形が仏具(僧の持つ道具)に似ているところから。孫悟空が持っていた如意棒の「如意」です。「自由自在」という意味があるそうですが、実は背中をかく「孫の手」だそうで、なるほど「思うがまま」に背中がかけます。お坊さんが背中をかくのに使っていたのがお道具に転じたようです。宗派により違う場合がありますので間違いはご容赦を。



ツボスミレ (ニョイスミレ)

クモの糸付きヤチカワズスゲ

「坪」は庭の意。「壺」と書く場合もあるそうですからややこしい。語源はいろいろあるようです。イシモチソウ(石持草)も花芽を出しました。少しずつですが増えているようです。湿原柵内の奥にあるので見られないのが寂しい。しかし、旧歩道にも広がってきているので、第1湿原視点場付近から見られる日が来るかもしれません。



めでたい雰囲気のアカマツの花

山の木本はコバノガマズミ(小葉英蒨)、カマツカ(鎌柄)、アカマツ(赤松) ツクバネウツギ(衝羽根空木)などが目を惹きました。それとコナラメリンゴフシ(虫こぶ)が真っ盛りでした！コナラの実はどんぐりですよ！お間違えの無いようお気を付けください。

この日も人は少なく「3空」でお散歩できました。「新たな日常」は丸山には必要ない？大人数の活動(訪問)をどうするかこれは大きな課題です。セミナーもね……



コナラメリンゴフシ(虫こぶ)

次回お散歩・柴刈り 5月24(日) 6月13日(土) 28日(日) (午後総会 西谷会館の予定)

総会はコロナと会場の状況等がはっきりしません。次の会報もしくは書面でご案内いたします。